



高千穂中学校

二次対応

1 安否確認

安否確認で確認する項目や学校からの連絡の内容については、次のようにします。生徒の情報収集と併せ、学校からの情報発信については、学校HPやマチコミメールにて行います。ただし、情報・通信網が不通の場合には、公民館等の掲示板等を活用します。

- ### 安否確認の内容
- 生徒及び家族の安否・けがの有無
 - 被災状況（生徒等の様子、困っていることや不足している物資）
 - 居場所（避難先）
 - 今後の連絡先、連絡方法

2 素早い情報収集

二次災害	判断材料	避難場所
火災	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 町からの避難勧告等 <input checked="" type="checkbox"/> 消防署への情報収集 	高千穂高校等
倒壊等	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 校舎等の巡回 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺の状況確認 	広い空間等
その他	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 車道等の通行状況 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の自然的環境・社会的環境 	危険区域外の建物

対策本部の設置

正常化の偏見

- 人間には、自分の身に迫っている危険を、根拠なく過小評価してしまう性質があると言われています。**（正常化の偏見）**
- 「大した被害はないだろう」、「ここまでは来ないだろう」という考えが、避難の機会を奪い、命を危険にさらします。
- 災害からの避難は一刻を争うものなので、「正常化の偏見」を打ち破って、一刻も早く避難を始めることが求められます。
- 生徒等の避難誘導に際しては、自分の心の中の「正常化の偏見」や、防災マニュアルの想定以上の災害が起こる可能性を、常に意識することが求められます。**（想定外を想定する）**

○ 徒歩及び自転車

- ・ 家屋や塀・瓦、電柱、橋などからまはずは離れて、身の安全を確保する。
- ・ 土砂崩れなどのリスクがある場所から離れ、家族で決めていた避難場所へ移動し、身の安全を確保する。
- ・ ルールよりもその時の最善（身の安全の確保）の行動をとる。

○ バス

- ・ 係員（運転手）の指示に従い、冷静に行動する。
- ・ 急停車時の転倒に気を付ける。

○ 自家用車

- ・ 左側に車を寄せてラジオ等で状況を把握し、待機するか避難するかを判断する。

- 地震による揺れを感じたら、周囲の状況を十分に確認して「**落ちてこない・倒れてこない・移動してこない**」場所に身を寄せる。
- ブロック塀や屋根瓦、自動販売機、ガラス、外壁、電線等の落下物や転倒物、液状化や隆起するマンホールなどにも注意が必要。
- 公共交通機関を使用している場合は、係員の指示に従う。

地震の発生

○ 体制整備と備蓄

- ・ 安全担当者による職員の分担
- ・ 保護者地域、教育委員会と連携した体制づくり
- ・ 地域の特性から予想される二次災害の洗い出し
- ・ 備蓄品などの確保

○ 点検

- ・ 計画的な安全点検
- ・ 避難経路や安全場所の点検

○ 避難訓練

- ・ 基本行動の徹底「**落ちてこない、倒れてこない、移動してこない**」場所への避難
- ・ マニュアル作成と見直し（評価・改善）
- ・ 教科・領域での関連学習の実施

○ 研修等

- ・ 生徒指導主事や安全担当者を中心とした研修の充実
- ・ 地域や教育委員会、関係団体等との連携